

検討会（第 1 回・第 2 回）における主な意見 （危険物規制に係る技術基準の合理化）

消防庁危険物保安室

危険物施設と高圧ガス施設等の間に設ける離隔距離（保安距離）・危険物施設の周囲に設ける空地（保有空地）

検討の考え方について

- ・ 今回のリスク評価をした場合に、必ずしも緩和するだけではない結果も出てくるとされる。理に適った基準を検討していくことが重要である。（第1回）
- ・ 消防本部における審査や検査業務でリスク評価を判断するのは難しいため、消防本部が判断できるような運用も含めて検討する必要がある。（第1回）

評価の指標について

- ・ 評価の指標の検討に当たっては、事件事例についても調査すべき。（第1回）
- ・ 輻射熱によって、危険物施設における危険物や、高圧ガス施設における可燃性ガスが過熱されることにより危険な状態に至ることも考えられる。このような事象についても、想定した要件とする必要がある。（第2回）
- ・ 高圧ガス施設で爆発事故の場合、爆風圧や飛散物の影響について、水幕設備では飛散物の影響を防ぐことはできないため、壁や塀を設けることが基本になる。（第2回）
- ・ 爆発については、現時点では爆風圧を指標として評価を行うことを基本としつつ、飛散物による影響についての評価については、他法令における取扱等と整合を図りながら、運用を検討していく必要がある。（第2回）

評価方法について

- ・ 「水素スタンドの多様化に対応した給油取扱所等に係る安全対策のあり方に関する検討報告書」（平成31年3月）において、「温度上昇に係る計算」が検討されているので参考にしてください。（第1回）
- ・ 欧米のリスク評価も参考にしてください。（第1回）

移送取扱所の配管の最小厚さについて

工事管理について

- ・ 工事管理については、事業所によって様々なやり方がある。複数の事業者が関与する工事も存在するため、責任の所在が明確となる基準とすべき。（第1回）

管理の範囲について

- ・ 平常時の管理でいえば、地上配管よりも地中配管の方が外力の影響は受けにくい。一方で、地中配管の方が地下水による腐食の影響を受けやすい。また、地域特性により寒冷地では冬に配管が雪の中に埋まってしまうといった管理の難しさがある。このような観点を踏まえて、管理の範囲を整理する必要がある。（第2回）
- ・ 例えば、栈橋に設けられた移送配管については、地上配管と取り扱うのか、それとも海上配管と取り扱うのか。管理の区分や分岐点について、整理しておく必要がある。（第2回）

ガソリンスタンドにおけるMCH関連設備の設置について

トルエン回収時の安全対策

- ・ 平成30年度の有識者検討会では、トルエン回収時の安全対策に関する議論が抜けているのではないかと実態を調査し、必要があればトルエン回収時の安全対策も検討すべき。（第1回）

急速充電設備との関係

- ・ 最近では電気自動車が増え、急速充電設備を設けるガソリンスタンドが増えている。ガソリンスタンドに併設する急速充電設備とMCH関連設備との関係を踏まえた安全対策（危険物の流出時の急速充電設備の電源遮断etc.）についても、考慮しておく必要がある。（第2回）